

CASBEE-新築(簡易版)2008年版
(仮称)四条大宮計画 新築工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2008年

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.3.2)

スコアシート		実施設計段階						
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
				評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								2.9
Q1 室内環境					0.38			2.7
1 音環境				3.0	0.23	-	-	3.0
1.1 騒音				3.0	0.97	-	-	
1 暗騒音レベル				3.0	1.00	3.0	-	
2 設備騒音対策				-	-	-	-	
1.2 遮音				-	-	-	-	
1 開口部遮音性能				-	-	3.0	-	
2 界壁遮音性能				-	-	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0	-	
1.3 吸音				3.0	0.03	3.0	-	
2 温熱環境				2.0	0.44	-	-	2.0
2.1 室温制御				3.1	0.50	-	-	
1 室温設定				3.0	0.48	3.0	-	
2 負荷変動・追従制御性				-	-	-	-	
3 外皮性能		窓SC=0.454窓U=4.5、外壁U=0.51、屋根U=0.32、ビロティU=0.31であ		4.0	0.18	3.0	-	
4 ゾーン別制御性				3.0	0.34	3.0	-	
5 温度・湿度制御				-	-	-	-	
6 個別制御				-	-	-	-	
7 時間外空調に対する配慮				-	-	-	-	
8 監視システム				-	-	-	-	
2.2 湿度制御				1.0	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式				1.0	0.30	3.0	-	
3 光・視環境				-	-	-	-	-
3.1 昼光利用				-	-	-	-	
1 昼光率				-	-	3.0	-	
2 方位別開口				3.0	-	3.0	-	
3 昼光利用設備				-	-	3.0	-	
3.2 グレア対策				-	-	-	-	
1 照明器具のグレア				-	-	-	-	
2 昼光制御				-	-	3.0	-	
3.3 照度				-	-	-	-	
1 照度				-	-	3.0	-	
2 照度均斉度				-	-	-	-	
3.4 照明制御				-	-	3.0	-	
4 空気質環境				3.5	0.33	-	-	3.5
4.1 発生源対策				4.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質		内装材はF☆☆☆☆を採用		4.0	1.00	3.0	-	
2 アスベスト対策				-	-	-	-	
3 ダニ・カビ等				-	-	-	-	
4 レジオネラ対策				-	-	-	-	
4.2 換気				3.0	0.30	-	-	
1 換気量				3.0	0.50	3.0	-	
2 自然換気性能				-	-	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.50	3.0	-	
4 給気計画				-	-	-	-	
4.3 運用管理				3.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視				3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御				3.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.2
1 機能性				2.9	0.40	-	-	2.9
1.1 機能性・使いやすさ				4.0	0.43	-	-	
1 広さ・収納性				-	-	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応				-	-	3.0	-	
3 バリアフリー計画		バリアフリー新法の建築物移動等円滑化誘導基準を満たしている		4.0	1.00	3.0	-	
1.2 心理性・快適性				1.0	0.32	-	-	
1 広さ感・景観				-	-	3.0	-	
2 リフレッシュスペース				-	-	3.0	-	
3 内装計画				1.0	1.00	3.0	-	
1.3 維持管理				3.5	0.25	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		維持管理に配慮した設計において、取り組みが標準以上である		4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性				3.3	0.31	-	-	3.3
2.1 耐震・免震				3.0	0.48	-	-	
1 耐震性				3.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能				3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.7	0.33	-	-	
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.23	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		耐用性の長い外壁材(タイル:40年、リシン吹付:30年)を採用		5.0	0.23	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.09	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.08	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		主要な用途上位3種の、2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用		5.0	0.15	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.23	-	-	

2.3 適切な更新						
2.4 信頼性			3.6	0.19	-	-
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-
2	給排水・衛生設備	節水型器具を採用している、かつ可能な限り配管の系統を区分し	4.0	0.20	-	-
3	電気設備	非常用発電設備を備えている、かつ浸水の危険性がない	4.0	0.20	-	-
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-
5	通信・情報設備	通信手段の多様化を図っている、かつ浸水の危険性がない	4.0	0.20	-	-
3 対応性・更新性			3.4	0.29	-	-
3.1 空間のゆとり			4.0	0.31	-	-
1	階高のゆとり		-	-	3.0	-
2	空間の形状・自由さ	空間のプランニングの自由度が高い(壁長さ比率0.16)	4.0	1.00	3.0	-
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	3.0	-
3.3 設備の更新性			3.4	0.38	-	-
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-
2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-
3	電気配線の更新性	構造部材、仕上げ材を痛めることなく電気配線の更新・修繕がで	5.0	0.11	-	-
4	通信配線の更新性	仕上げ材を痛めることなく通信配線の更新・修繕ができる	5.0	0.11	-	-
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-
6	バックアップスペース		3.0	0.22	-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.32	-	-
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-
3 地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30	-	-
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-
3.2	敷地内温熱環境の向上	中・高木の緑地やビロティ等を設けることにより、日陰の形成に努	4.0	0.50	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-
1 建物の熱負荷抑制		建物の断熱を適切に配し、外壁や窓を通しての負荷に配慮してい	5.0	0.25	-	-
2 自然エネルギー利用			3.0	0.21	-	-
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50	-	-
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-
3 設備システムの高効率化		ERR=0.5	3.0	0.32	-	-
4 効率的運用			3.0	0.21	-	-
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-
1 水資源保護			3.4	0.15	-	-
1.1	節水	節水コマに加えて、省水型機器などを用いている	4.0	0.40	-	-
1.2	雨水利用・雑排水再利用		3.0	0.60	-	-
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-
2	雑排水再利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			2.7	0.63	-	-
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07	-	-
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.20	-	-
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.05	-	-
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	PS・EPS・天井内配管で内装材と設備の錯綜がない	4.0	0.24	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.2	0.22	-	-
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32	-	-
3.2	フロン・ハロンの回避		3.3	0.68	-	-
1	消火剤	ハロン消火剤を使用していない	4.0	0.33	-	-
2	断熱材		3.0	0.33	-	-
3	冷媒		3.0	0.33	-	-
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-
1 地球温暖化への配慮		LCCO2排出量低減に配慮している	4.0	0.33	-	-
2 地域環境への配慮			2.9	0.33	-	-
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25	-	-
2.2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-
2.3	地域インフラへの負荷抑制		2.7	0.25	-	-
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-
3	交通負荷抑制	適切な量の駐車スペース、自転車置場の確保	4.0	0.25	-	-
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-
1	騒音		3.0	0.50	-	-
2	振動		3.0	0.50	-	-
3	悪臭		-	-	-	-
3.2 風害、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-
2	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-
1	屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策	点灯時間や明るさなど適切な計画としている	4.0	0.70	-	-
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-